

Cグループ

(9~12月生まれ)

進行係 : 五十嵐(信) 発表係 : 横山(菊)

メンバー : 山岸、長岡、入山、小日向

記録係 : 横山(正)

平成25年8月22日

議論の方向性

「住みよい街」という認識で不満も少ないが、もっと住みよくなるために考えなければならない視点があるような気がする。

フリーディスカッション

昔は良かったと思うが、徐々に住みにくくなりつつあると感じる。道路の便が良すぎるので、他所へ出て行ってしまふ。

世代ごとに人間関係の期待が違う。ご近所の関係ですら、大切に考えなくても済む世代が現れていることに危惧を感じる。

個人情報保護法の影響で、人間関係がギクシャクし始めたんじゃないだろうか。円滑ではなくなってきている。

住みやすいとは思っているが、画一的な行政(役所)に対しては大いに不満を持っている。

人間関係に関するソフトな分類が足りない

自分の子供達を介して友人を作ったり、集まったりするための施設やイベントがあれば、利用すると思う。

若い世代の人達が、生活をエンジョイするための仕掛けを準備しなければならないのではないかなと思う。

公共的な組織ではなく、新しい「公共」とも言える集団化を検討すべき時に来ているのではないかな。

若い世代への情報発信がスタートになるような気がする。情報があれば若者たちが集まる機会は増えると思われる。

コミュニティセンターや広場など、誰でもブラッと集まれる、立ち寄れる場所が必要なのではないだろうか。

高齢者は自分たちで考えて何とかするが、若年層については誘導するような仕掛けが必要と思われる。

交流の場の提供で、より住みやすい街を

目指すための人間関係を育む仕掛け。

誰でも気楽に集まることができる広場や施設(育児施設など)。

地域の常設市場で素材を売り、地元の食材を使ったレストランなどの並んだ「ハレの場」づくり。

世代毎の人間関係を育む仕掛けや、世代間交流を促進する仕掛けを表現できる施設や活動を見えるようにするための情報発信機能を兼ね備えた「場」を重視したい。